

**資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録**  
**2012年度 第8回**

**報告題名：広西チワン族自治区における農業災害保険の現状および課題について  
 —柳江県を事例として—**

|             |         |               |              |
|-------------|---------|---------------|--------------|
| <b>報告者</b>  | タンボウニ   | <b>日時</b>     | 11月22日 午後3時～ |
| <b>所属分野</b> | 農業経営経済学 | <b>場所</b>     | 第二講義室        |
| <b>座長</b>   | 井上 晋平   | <b>議事録担当者</b> | 泉井 亮平        |

**出席者**

長谷部、木谷、安江、小山田、盛田、米澤、米倉、冬木、高篠、石井、鈴木、大友、スチン、滝田、タンボウニ、中村、山口、泉井、今井、ナスンムク、徐、趙、Manalo、劉、王、キエイ、井上、佐々木、志賀、西田、金、伊藤、渥美

**報告要旨**

農業災害保険は世界中に、農業経営の安定化されるに大きな役割を果たしてきた。中国は2005年以降、農業災害保険は良好に発展していた。しかし、広西チワン自治区を代表として、いくつかの収入水準が低い地域では、農業災害保険がただ端緒を辿ってきた。本研究の目的は、広西における農業災害保険の現状や課題を明らかにする上で、他の収入水準が低い地域での農業災害保険の改善を検討していきたいと考えている。広西における農業災害保険は2006年以降再出発して、一番目の政策的農業災害保険試行項目—柳江県のサトウキビ保険が開始した。2012年10月に、柳江県の人民財産保険株式会社を訪問し、柳江県における農業生産状況、農家の収入構成、農業災害保険の概況（試行制度、保険掛金と補償金、農家の加入率）を明らかにした。その中で、サトウキビ保険に焦点を当て、補助がなくても農家も加入する原因を分析した。それは①サトウキビ保険は、銀行が農家に貸し付ける担保として、保険がなければ貸付金は困難になる；②製糖工場は加入農家のみ契約、保険会社の代わりに製糖工場が保険掛け金を徴収し、補償金を支払う；③農家は十年以上の補償経験がある；④保険会社の頻繁的な宣伝である。今後の研究計画は、①柳江県の加入農家に対するアンケート調査を実施する；②広西における他の試行プロジェクトに対する実地調査を行う。農業災害保険に対する加入農家の意見と他の試行プロジェクトの実施状況を参考する上で、広西における農業災害保険の課題を明らかにして、その改善について検討する。

## 質疑・応答

西田：ドクター論文の全体の構成は決まっていないのですか？

タン：まだ決まってはいませんが、現状では、複数の地域で農業災害保険の現状を調査して課題を明らかにしたいです。

西田：今やっていることはドクター論文を書くに当たっての事前調査ですか？

タン：今回の発表は広西の災害保険の現状と課題を明らかにしたもので、広西のみでは他地域の農業災害保険の状況を全体的に代表できないが、(今後は)一般的な課題と解決方法を明らかにしたいです。

盛田：sl 内の記述の確認のため省略

タン：同上

米倉：農業災害保険の課題は何だったのですか？

タン：一番大きい問題は、先行研究にもあるように2007年以前のデータが無いことです。また柳江県の課題は加入率の変動が大きいことです。そこでなぜこのような変動が起きるのか仮説を建て、来年に加入農家に対してアンケート調査を行うことで、その仮説の検証を行おうと思います。

米倉：その仮説とはなんですか？

タン：sl. 21 に載せた4点です。

米倉：政府補助によって成り立っている保険制度が本来的に持続可能なのですか？

タン：確かに地方政府の財政状況に対して農業災害保険の補助は大きな負担になっています。そのため柳江県では2007年から保険掛金補助を廃止しました。しかし、他の収入水準が高い地域では、政府補助が継続されているにもかかわらず、柳江県では補助が廃止されても高い加入率を示しています。この点が今回の調査における重要な論点であると考えています。

米倉：両属両戸とはどのような意味ですか？

タン：両属は農村に住む現役軍人または犠牲者の家族。両戸は農村に住む収入水準の低い人と労働力や収入がない人。家屋の状況が悪いため家屋保険は貧困補助のプロジェクトです。

米倉：軍人に対する年金みたいですね。

タン：日本の年金とは違うものかと思います。

盛田：なぜ製糖工場が保険加入農家のみと契約という選別まで行うのですか？ また、種豚に関しては補助金が継続されているにもかかわらず加入率が7%と低いのですか？

タン：柳江県には製糖工場がひとつしかありません。結果、保険に加入しなければ(その製糖工場と契約できないという理由から)遠方の向上へ運搬することになります。それは農家にとってはコストが掛かるものであるためです。

盛田：それは農家の話ですよ？そうではなく、なぜ製糖工場が「選別」のようなことを行うのですか？農家の再生産を保証するためといった理由なのではないでしょうか？

タン：農家の再生産を保証する保険は、結果的に製糖工場の再生産を保証するからです。種豚に関しては調査をまだおこなっていないためわかりません。

**米倉**：農家と製糖工場の間には縛り（指定された製糖工場でなければ出荷してはいけないなど）のようなものはあるのですか？

**タン**：ないです。

**米倉**：もともとは人民公社との関係があったのでは？

**タン**：そうですね。ただ現在製糖工場は私営になったので、そのような縛りはありません。ただ地理的な問題からも選択肢は非常に小さく、一見「指定された工場」のように見えます。

**長谷部**：政府補助の効果というものはわからないのですよね？2005年までは補助がなく2006年以降に政府の補助が始まった。その効果というものはなぜわからないのですか？それが示されなければ、これ（発表）は政府のやっていることを宣伝しているだけになりませんか？

**タン**：2007年以前のデータが存在しないのでわかりません。

**長谷部**：だからこの発表は政府のやっていることを宣伝しているだけですか？

**タン**：2006年まではサトウキビ保険は政府と関係がなく、保険会社によるものでした。

**長谷部**：だから、（2006年前後で）どう違ってきただけかがわからなければ、新しい政策の意味合いが全然わからないのではないですか？

**タン**：加入率に関しては調べた現状を基に仮説を建て、来年の調査によってその変化（の原因）はわかると思います。

**長谷部**：今の段階では先行研究などの整理は意味が無いのでは？

**タン**：いろいろな論文を読んでも、この問題が一番大きな課題になると思います。

**長谷部**：なにも解決されていないのですよね？それは「先行研究のとおりでした」と同意義なのでは？つまり価格が安くなれば加入率も増えると予想されますが、そういった単純な（効果を示す）データが示されていないと言っているのです。

**タン**：この問題に関しては来年また保険会社への調査の時に聞こうと思います。

**米倉**：つまり全国的に展開できるような制度設計になるのかどうか、おそらく一番のポイントは政府の補助になると思うが、どこまで減らせるのかといった見通しが知りたいのです。そういったことに正面からぶつかって欲しい。過去のデータはとも比較しながら、最適な制度設計とはどのようなものなのか、そういった目標をしっかりと定めて欲しい。

**タン**：北京や上海などで行われている施工制度は日本の共済制度のように詳細を詰めた制度になっているが、収入水準の低い地域ではまだそのような制度はないです。そこで発達地域への実地調査も必要と考えています。